

ぱれっと

7
月号

仙台市市民活動サポートセンター通信

2014 No.179

“ぱれっと”には、サポセン にいるいるな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。

サポセン開設 15周年特別号



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）は、開館15周年を迎えました。1999年6月30日の開館からこれまでの総利用者数は74万人以上。団体情報ファイルには、県内外4,400を超える市民活動団体の情報が蓄積されています。

多くの市民・市民活動団体が、仙台のまちをより住みやすい、より魅力あふれるまちに変えてきました。その一つひとつの活動のはじまりは小さいものかもしれませんが、サポセンを通して活動と市民がつながり、団体と団体がつながり、化学反応のように社会に変化を生み出してきました。今回のぱれっとは15周年特別号として、そのほんの一例を紹介いたします。

P14 - 15

マチノワ

市民のチカラがつながり、
まちのチカラとなる

P12 - 13

ときめきとカワイイは社会を救う
リボンヌ手芸部 宮城

好きを広げる
チカラ

P11

被災地の女性の手仕事支援
園児エプロンプロジェクト

ワタシのチカラ

P4 - 5

思いをカタチにする
チカラ

犯罪加害者家族の支援を行う先駆けとなる
NPO法人 World Open Heart

P6 - 7

シニアのチカラ

人気殺到！高齢者向け「脳トレ塾」を展開
NPO法人 日本脳トレーニング協会

P8 - 9

若者のチカラ

社会を変えるエネルギー

- NPO法人 ドットジェイピー東北支部
- アイセック仙台委員会
- 一般社団法人 ReRoots (リルーツ)
- NPO法人 POSSE 仙台支部

P10

企業のチカラ

子どもたちに元気と笑顔届けたい
カゴメ(株)東日本大震災復興支援室

思いをカタチにする チカラ

犯罪加害者家族の支援を行う先駆けとなる NPO法人 World Open Heart

少数派ゆえに、差別を受けたり、生きづらさを抱えたりすることの多いマイノリティ（社会的少数者）を支援しているNPO法人World Open Heart（以下、WOH）。犯罪加害者家族の支援を行うなど、先駆けとなる活動で全国的にも注目されているWOHが、仙台で生まれ大きく成長した過程を振り返ります。

誰も行ってない活動も始まりは情報収集

WOHの代表阿部恭子さんが、サポセンを初めて訪れたのは、2007年に開催された「ボランティアサロン」でした。当時、大学院のゼミで自殺対策について調べていた阿部さんは、海外の文献で先住民族やセクシュアルマイノリティ（性的少数者）などマイノリティの自殺率が高いことを知り、マイノリティの支援が自殺対策につながるのではと考えました。当時の日本ではまだ、そのような調査データはありませんでした。マイノリティを支援している団体についての情報があるかもしれないと、サポセンに調べに来たのでした。

そこから、サポセンへと足しげく通うようになった阿部さん。仙台・全国のマイノリティ支援を行う団体や自殺対策を行っている団体から情報を収集し、時には各団体の活動に参加しながら団体設立の準備を重ねました。同時に、自殺対策やマイノリティ支援に関心

のある様々な人たちに声をかけ、団体としての方向性を話し合いました。方向性を固め、精査した結果、マイノリティ支援を行うためWOHを2008年に立ち上



▲代表の阿部恭子さん

げました。調査と議論を重ね

て、それまで誰も行っていなかった犯罪加害者家族の支援にたどりつきます。自殺対策に取り組む他団体と連携し、犯罪加害者家族の「わかちあいの会」を開催すると、全国初の試みとして地元の新聞で大きく紹介されました。その新聞記事がきっかけとなり、全国から取材が相次ぎ、新聞やテレビで報道され、孤立していた全国の当事者から問い合わせが入るようになりました。

共感を呼ぶ活動

2010年、市民活動により地域や社会に起こった変化を紹介し、表彰するためにサポセンが実施した「市民活動アワード」。エントリーした12団体18件のエピソードのうち、最も市民の共感を集め「オーディエンス賞」（審査員選出の「イノベーター賞」とのダブル受賞）に輝いたのが、WOHの「全国初の犯罪加害

2007年11月11日(日)@セミナーホール ボランティアサロン開催

サポセンとせんだいCARES実行委員会の協働事業「まるごとサポセン・まる一日せんだいCARES」の中のプログラムです。

「見たい・聞きたい・やってみたい！市民活動ウォッチング」と題して、ボランティアをしてみたいけれど何ができるか探したいという方のための相談コーナーを開設。団体に直接話しを聞くことができる市民活動団体ブースや、団体PRコーナー、仙台市内はもちろん全国の市民活動の

情報を自由に閲覧できるボランティア情報コーナーなどが設けられました。



※せんだいCARES実行委員会：NPO・市民活動を広報で支援するキャンペーン。



▲ 市民活動アワード2010でオーディエンス賞受賞



▲ WOH 主催セミナーの様子

者家族支援」というエピソードでした。

「辛い」「苦しい」と口にすることさえ許されないと、息を潜めるように生きてきた被害者の家族たちがWOHの活動で、少しずつその心境を語り始めたこと。その声を聞いた人たちの中に「他人事ではなく、自分も加害者家族になる可能性がある」と、当事者意識が芽生えてきていることを紹介しました。このエピソードは、特設ウェブページとサポセン館内で行われた市民による投票でも、一次選考通過団体によるステージ発表後に行われた市民と審査員による最終投票でも、大きな共感を呼びました。

震災を経て、加害者家族の伴走型支援へ

わかちあいの会と個別相談を柱に、公判を傍聴する家族の付き添いなど相談者のニーズに合わせた支援も追加し、自殺対策の電話相談など新たな活動を始めたところで東日本大震災が発生しました。震災直後は、宮城刑務所の受刑者家族などから、刑務所の様子を心

配する問い合わせがあり、代表の阿部さん自らが刑務所に向いて様子を確認し、家族へ伝えました。さらに、被災者向けの電話相談を開始するなど、これまでの活動に震災対応も加わり多忙を極めました。

その最中の2011年9月には、WOHをNPO法人化。現在は、犯罪加害者家族へのきめ細やかな伴走型支援を行っています。「活動を続ける中で、どんな支援が必要なのかが分かってきました。しかしながら、犯罪の種類によって必要な対応も違いますし、加害者家族と言っても、配偶者なのか、親なのか、子なのかによっても違ってきます」と阿部さん。事件発生直後から加害者家族が自立するまで、一件一件、伴走しながら柔軟に対応しています。家族の身の安全の確保、報道対応、弁護士の紹介、裁判所への家族のプライバシー保護の申し入れなど、支援は多岐に渡ります。

「加害者の弁護士が守るのは、あくまで本人のみで家族は対象外です。だから私たちが加害者家族を支援していく必要があるのです」。阿部さんとWOHのメンバーは強い使命感を持って活動を続けています。

2010年11月27日(土)@市民活動シアター 市民活動アワード2010～最終選考会～開催

市民活動団体から「市民活動により地域や社会に起こった変化を紹介するエピソード」を公募し、10月にサポセン館内と特設ウェブページで12団体18エピソードを紹介。市民による投票の結果、得票数上位9つのエピソードが一次選考を通過しました。一次選考では、519票の市民投票が集まりました。11月の最終選考会でステージ発表を行い、審査員(中学生～シニア層まで)の審査による各賞と会場に会場にきた皆さんによる投票で決まる「オーディエンス賞」を決定。この取り組みは、全国的にも珍しく各方面から注目を集めました。



◀『市民活動アワード2010エピソード集』
小冊子発行

団体情報

NPO法人 World Open Heart
(ワールドオープンハート)

〒980-0804

仙台市青葉区大町 2-3-12

大町マンション 902 号室

TEL./FAX. 022-398-7129

mail: world.open.heart@gmail.com

HP: <http://www.worldopenheart.com/>

シニアのチカラ

人気殺到！高齢者向け「脳トレ塾」を展開 NPO法人 日本脳トレーニング協会

高齢者向けに脳の活性化を図る「脳トレ塾」を開催しているNPO法人日本脳トレーニング協会。代表の佐藤利通さんはとても元気で活力あふれる80代です。開館当初からサポセンを活用している佐藤さんのサポセン活用術を紹介します。

脳トレ塾をはじめるまで



▲ 代表の佐藤利通さん

仕事の第一線から退き、ご自身の病気の経験から、健康に関する市民同士の学びの場を提供する「健康塾」を立ち上げた佐藤さん。活動の場を探していたところ、人づてに当時まだ開館間もなかったサポセンの情報を入手。早速、利用

を開始しました。「健康塾」の活動が一段落ついた後も、佐藤さんは、言語空間の活性化を目的とし、いろいろな講師の話を書く学びの場「まるまる〇〇大学」へと活動を変えて市民活動を継続。そんな中で出会ったのが、仙台市と東北大学川島隆太教授との共同研究プロジェクトとして実施されていた「脳トレーニング」でした。共同研究プロジェクトは思うように進展しなかったものの、市民センターで川島教授協力のもと高齢者向けに脳トレーニング教室を開催し、手ごたえを感じ

ていた佐藤さんは、この手法を継承・普及するために2005年12月に「日本脳トレーニング協会」を設立しました。「覚えたてのパソコンに悪戦苦闘しながら、チラシを作ったもんだよ」と佐藤さんは当時を振り返ります。団体の存在を知ってもらうべく、サポセンの作業用パソコンで原稿を作成し、印刷作業室^{*}でチラシやテキストを印刷する毎日でした。

事務用ブースでステップアップ

2006年2月にサポセンの事務用ブース^{*}へ入居し、4月からサポセンの貸室を会場に「脳トレ塾」を開始します。活動の傍ら準備を重ね、その年のうちに団体のNPO法人化も成し遂げました。同時期に事務用ブースに入居していたメディアデザイン（現、一般社団法人メディアデザイン）にデザインを協力してもらい、脳トレ塾のチラシを作成。今でもこのデザインを活用し続けています。「メディアデザインさんには、同期ということで融通してもらいました。こちらからも脳トレ塾の資料を渡したり、お互いの活動について情報交換をしていたからこそできあがったチラシでした。ブースを卒業後、しばらくして再会した時に、今でもチラシを使っていることを伝えたら喜んでくれました」。そう語る佐藤さんも、事務用ブースで同期だったメディアデザインが現在も活躍していることを、とても喜んでいました。

【サポセン・ココをチェック】

印刷作業室

活動を広めるツールづくりに、印刷機や裁断機、紙折機、コピー機を備えた作業スペースです。団体のニュースレターやチラシの作成に活用できます。印刷機は、市民公益活動に関する内容であれば使用でき、年間1,900件ほどの利用があります。



事務用ブース

ステップアップのための仮オフィス。市民活動団体の簡易事務所として活用できるスペースです。パーティションで仕切られたブースに事務機とイス、ロッカーが備えられています。ブースの広さは約4㎡。電話1回線を設置可能。有料、一年ごとの更新で審査があり、最長3年間使用できます。





▲ サポーターと塾生が1対1でトレーニング



▲ サポーターとのおしゃべりも脳活性化に効果的

こつこつと活動を継続

3年間の期間満了で事務用ブースを卒業した後も、日本脳トレーニング協会は、脳トレ塾の会場として貸室を利用するだけでなく、新しい試みをする際には、3階の相談・つながるサロン^{*}で相談をし、プランの整理を図るなどサポセンのサービスをフルに活用しています。脳トレ塾で使用するテキストも、サポセンの印刷機を使って印刷。漢字の読み書き、ことわざ、計算問題など、テキストは全て佐藤さんのオリジナルです。テキストは脳トレ塾の中で使うことはもちろん、自宅での自習用にも使えて、これが参加者にとっても喜ばれています。毎日新しい問題に取り組めるようにと、2006年の脳トレ塾スタートから、佐藤さんがこつこつと作り続けたテキストは、全2,800ページにも及ぶ大作となりました。その保管場所にもサポセンの貸ロッカーを活用しています。「ロッカーに整理して保管してあるから、脳トレ塾の最中に急に他の問題が欲しいと言われても取りに行ってもさっと渡せるんですよ。ロッカーが使えなくなったら本当に困っちゃいま

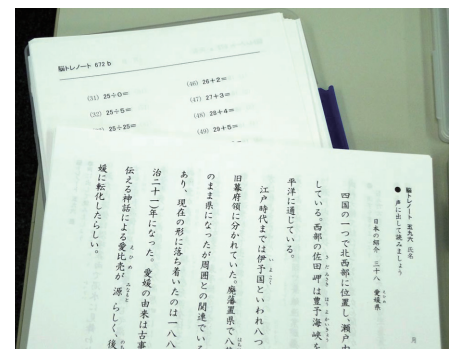
相談・つながるサロン

想いを整理し、課題を解決するボランティアや市民活動、シニア活動の活動に関するご相談に応じます。市民活動の基礎知識から団体運営、広報戦略に関することまで幅広い内容にサポセンスタッフが応じるほか、必要に応じて様々な専門家や関係機関と連携してサポートします。



す」と言う佐藤さん。毎年のロッカーの更新は欠かせません。

2,800ページの脳トレ塾テキストが完成したことは、話題性に事欠かないことから、この情報をサポセンから地元新聞社の記者さんへお知らせしたところ、記者さんが早速、脳トレーニング協会を取材。地元紙に大々的に掲載されました。この記事が大きな反響を呼び、問い合わせの電話が相次いだとか。「まさに嬉しい悲鳴でした」と佐藤さん。結果、脳トレ塾の運営をお手伝いするサポーター1人と、塾生14人が新たに参加することになりました。開館から15年もの間、サポセンを活用してきた佐藤さんですが、活動はますます活発になる一方です。今後の活動の中でも、サポセンをフルに活用していただければ嬉しいです。



▲ 団体オリジナルのテキスト(脳トレノート)は塾生に大人気

団体情報

NPO法人 日本脳トレーニング協会

〒980-0811

仙台市青葉区一番町 4-1-3

仙台市民活動サポートセンター LC No.10

TEL. 080-1810-0307

「学都仙台」として多くの学生が集い、また、多彩な市民活動が活発に展開されている仙台。年間約800もの市民活動団体やNPOの皆さんに活動の拠点としてご活用いただいているサポセンにも、市民活動や地域活動に積極的に関わる多くの若者が訪れています。

東日本大震災以降、復興に向けてたくさんの学生団体が立ち上がり、まちづくりを担う一員として、多くの若者が活躍しています。サポセン5階のフリースペース「交流サロン」にも新しい顔ぶれが目立つようになりました。復興に向け団体間の連携がますます重要になる中、サポセンでは、利用団体がお互いを知り、交流のきっかけとなるような場をつくることで、連携を推進しようとさまざまな交流会を開催しました。

2012年2月に学生団体同士の情報交換の場「フューチャー☆ナイト」を開催。10月には、そのつながりから、サポセンサロン「復興支援活動を行う若者の情報交換会」を開催しました。

サポセンは、様々な人が訪れるだけでなく、交流する場にもなっています。

こんな若者が活躍しています！

若者の投票率向上を目指し活動

NPO法人 ドットジェイピー東北支部

全国15支部にエリア展開し、学生を対象に議員事務所や官公庁にて就業体験を積む「議員インターンシッププログラム」を提供。東北支部は、「宮城・山形を中心として、多くの若者が政治と接し、社会経験を積むことによって一人でも多くの若者がイキイキとし、明日の日本を考えるきっかけを提供したい。日本の未来を拓くことになげたい」と活動しています。



東北支部代表 阿部航平
mail : tohoku@dot-jp.or.jp
HP : <http://www.dot-jp.or.jp/>

2012年2月25日(土)@セミナーホール フューチャー☆ナイト開催

普段、交流サロンを利用する学生団体の皆さんに集まっただけ、情報交換会を開催。サポセンスタッフも学生団体の皆さんとじっくり話をする機会はなかなかありませんでした。

そこで、フューチャー☆ナイトを開催するにあたり、普段からサポセンを利用している7人の学生の皆さんと企画を練りました。若者たちは、活動する中で「やる気のある人と出会いたい」「学びあい、高め合いたい」という思いを持っていることが分かりました。そこにサポセンの「団体同士が連携

することで、より成果のある活動をしてもらいたい」という思いを合わせた企画となりました。当日は、サポセンの若手スタッフも輪に入り、団体の取組みや活動のきっかけを発表し合い、それぞれの社会への関わり方を学び合いました。



124の国と地域で活動する 世界最大級の学生組織

アイセック仙台委員会

海外インターンシップの運営を行っている学生団体。国内の学生や法人に海外インターンシップを提案しています。仙台委員会は、日本に25ある支部のうちの一つとして、若者の活躍の場を広げています。



仙台支部委員長 津幡大輔
mail : sendai@aiesec.jp
HP : <http://sendai.aiesec.jp/>

復旧から復興へ、そして地域おこしへ

一般社団法人 ReRoots (リルーツ)

東日本大震災直後から、仙台市若林区七郷を拠点に、被災した農家のサポート、津波被害に遭った農地再生に取り組んでいるボランティアグループ。現在も東北大学、宮城教育大学、宮城学院女子大学、宮城大学、東北学院大学など地元大学生約80人がお盆や年末年始を除き、ほぼ毎日活動しています。



代表 広瀬剛史
〒984-0033
仙台市若林区荒浜字今泉59-3
TEL. 022-762-8211
mail : reroots311@yahoo.co.jp
HP : <http://reroots.nomaki.jp/>

これまでの経験と専門知識を 被災地の課題に生かす

NPO法人 POSSE 仙台支部

大学生や20～30代の社会人が中心となり、労働相談、労働法教育、調査活動、政策研究・提言を若者自身の手で行うNPO法人。東日本大震災発生後、仙台支部は、復興支援を中心に、被災した子どもを対象とした就学支援、仮設住宅での送迎バス、そして被災求職者の就労支援を行っています。



仙台支部代表 渡辺寛人
〒980-0014
仙台市青葉区本町1-14-20
本町キクタビル6階
TEL. 022-266-7630
mail : sendai@npoposse.jp
HP : <http://www.npoposse.jp/>

2012年10月16日(木)@交流サロン

サポセンサロン「復興支援活動を行う若者の情報交換会」開催

震災から2年が経過した頃、被災地のニーズやこれから取り組むべき課題は変化していきました。2月に開催したフューチャー☆ナイト参加者から「定期的な情報交換の場が必要」との声もあり、再び若者を対象とした情報交換会を開催。

当日は、「人材育成」「若者の社会参加」「復興」の3つのテーマでワールドカフェを実施。復興支援活動を行う中で新たに見えてきた課題の共有と改善策について、団体を越えて話を深め、アイデアを交換しました。



【サポセン・ココをチェック】

交流サロン

サポセン5階。市民活動やボランティアに関する少人数の打ち合わせや事務作業などに利用できるフリースペースです。1階の窓口でお申込みの上ご利用いただけます。

● 4人用テーブル席×9、2人用机席×2、作業用テーブル×1、無線LAN使用可能（無料／事前予約による席の確保はできません）

企業のチカラ

子どもたちに元気と笑顔届けたい カゴメ(株)東日本大震災復興支援室

カゴメ(株)といえば、私たちの食生活を通して身近に知られています。が、東日本大震災後は、「みちのく未来基金」を設立し、震災遺児の高校卒業以降の奨学を支援し、子どもたちの進学の夢を応援しています。東日本大震災復興支援室担当部長横川二郎さんが、東北に根ざした長期的な震災復興支援活動を行うため、NPOとの連携を求めてサポセンに來館したのは、震災から、そろそろ1年が経とういう頃でした。

今、何が求められているのかを的確に情報収集

今、被災地に必要な支援は何か。まずは現地の状況と被災者のニーズをつかむことが重要でした。何度かサポセンの相談・つながるサロン^{*}で相談を重ねるなかで、カゴメが震災前から社会貢献活動の一環として行っていた食育活動を生かし、親子で簡単な料理を作る場としてキッチンカーを出動するイベントが提案されました。最初のつなぎ先は、震災の被害が大きかった宮城野区にある仙台市鶴巻児童館(NPO法人せんだいみやぎ子どもの丘が管理運営)。イベント当日は、近隣の鶴巻東一丁目公園仮設住宅に入居されている方や子どもたち200人ほどが集まり大盛況となりました。東京本社や仙台支社からボランティアとして参加した社員たちも、「子どもたちの笑顔を見て、元気をもらいました」と、実際現場で支援活動を行うことで手ごたえを感じたようでした。

「みちのく未来基金」の活動とあわせた、息の長い食育支援活動

支援先は徐々に広がり、2012年度は、仙台市沿岸部を中心に石巻市、東松島市、気仙沼市の保育園、幼稚園、児童館を訪問したり、自治会やNPO・市民活動団体が主催するお祭りへ参加したり、農業高校の授業を支援したりと、活動の場を増やしてきました。2013年度も、宮城県から福島県、岩手県へと活動エリアを拡大。復興支援活動に加えて、食育支援プログラムも盛り込みながら、約100カ所^{*}で活動しました。例えば、トマトキッチンカーでは、地元の食材で作る調理実習。低学年向けには、野菜クッキーづくりや、「好き嫌いをなくそう」食育紙芝居などを行うトマト劇場の開催。農業高校生向けには「凛々子トマト」の栽培授業があります。

企業が被災地において活動するには、現地の的確な情報収集と、地元NPO・市民活動団体との連携は欠かせません。その両者が出会った時、大きな支援のチカラとなって被災地を力づける活動に成長していくのです。



▲ トマトキッチンカー出動!

【サポセン・ココをチェック】

相談・つながるサロン

市民活動やシニア活動の相談の他、企業の社会貢献活動を支援する、情報交換と相談の場として、じっくり相談できるスペースです。特に震災後は、復興支援活動の相談が増えました。活動の幅を広げ、より成果をあげるためには、他の団体や他のセクターとの連携が効果的です。サポセンは地域と市民活動、市民・企業・行政などセクター間をつなぎ、市民協働によるまちづくりを支援します。

みちのく未来基金

震災遺児の高校卒業と、大学・短大・専門学校への進学のための基金です。入学金、授業料の全額(年間上限300万円)を基金が給付します。震災当時0歳だった子どもが卒業するまで、25年間活動を継続します。

団体情報

カゴメ(株)東日本大震災復興支援室

〒103-8461
東京都中央区日本橋浜町 3-21-1
日本橋浜町Fタワー
TEL. 03-5623-8501

公益財団法人みちのく未来基金

〒981-3135
仙台市泉区八乙女中央 5-10-8
八乙女ユナイトビル 2階
TEL. 022-343-9996 FAX. 022-343-9997
mail: info@michinoku-mirai.org

被災地の女性の手仕事支援 園児エプロンプロジェクト

保 育園に入園する子どもを持つお母さんに、被災地の女性が縫った園児エプロンを販売するという手仕事支援事業を行う「園児エプロンプロジェクト」。被災地の女性は縫製代という収入が得られる一方で、裁縫が苦手だったり、仕事などで忙しいお母さんも助かる仕組みです。日常的に必要なものと「こんなものがあつたらいいな」がうまくマッチしたこの事業を考えたのは、現役ママでもある大坂裕子さんです。



▲ 代表の大坂裕子さん

自らの経験をヒントに活動開始

震災で親戚が被災したこともあり「何かしなければ」と思っていた大坂さん。しかし、小さなお子さんを連れては、沿岸部の活動には参加しづらく、はがゆい思いをしていました。

そんな時にふと思い出したのは、保育園で使う園児エプロンのこと。「市販もされていないし、私は裁縫が得意ではないので、困ってしまって。姉にお願いしてみたら、喜んで作ってくれたんです」。そんな経験から「被災地の女性にエプロンを縫ってもらい、その販売の手助けをすれば被災地支援になるのでは？」と、つながりのあった南三陸町で作り手を募集しました。

2012年2月から短期間のつもりで始めましたが、作り手と買い手両方から継続を希望する声がありました。縫製代を手渡しした時の嬉しそうな顔や「稼いだお金で親にプレゼントを買ったよ」という報告。思いがけない反響に「お金や物ではなく“仕事”を支援できて良かったと感じました」と、活動を継続することを決めました。

偶然知ったサポセンを活用

同年8月、「NPOいろは塾」*を受講。「NPO」を知り、「私がやっていたことって、NPOだったんだ!」と気づきました。大坂さんは、いろは塾受講後すぐにサポセンの相談機能を活用し始めます。サポセンスタッフからのアドバイスをもとに、初めて申請した助成金が採択されました。その助成金は、南三陸の作り手が気仙沼での新たな人材育成を行うための費用に充てました。

園児エプロンは保育園の必需品なので、常に一定のニーズがあります。「被災地の状況に合わせて、息の長い支援をしたい」と考えている大坂さんは、その後も折にふれてサポセンを訪れ、情報サロンで、情報収集をしたり、チラシを配布したり、今後の活動について相談したりと、サポセンのサービスを利用しています。

【サポセン・ココをチェック】

NPOいろは塾

「NPOってなんだろう？」を解決する、NPOの基礎を90分で学べる講座です。



1996年から少しずつ内容をリニューアルしながら、現在まで続く人気講座。講座後半にはサポセンスタッフがガイドを務める「サポセンガイドツアー」があり、実際に館内を回って「どこに何があるのか」「どんなサービスがあるのか」サポセン活用術をお伝えします。講座後にサポセンで情報収集をする時、活動を始めた時に役立つ内容となっています。

情報サロン

サポセン1階の情報サロンでは、市民活動に関するイベント情報やボランティア情報などのチラシ、ニューズレター、団体パンフレットなど様々な情報を見ることができます。また、市民活動団体向けの助成金情報など、活動に役立つ情報もあります。同時に、市民活動団体・NPO・ボランティアグループの皆さんから、チラシ、ニューズレター、団体パンフレットなどの情報の持ち込みを受け付けています。

団体情報

園児エプロンプロジェクト

代表：大坂裕子

mail：enjiapron@gmail.com



好きを広げる チカラ

ときめきとカワイイは社会を救う リボンヌ手芸部 宮城

リボンヌ手芸部宮城（以下、リボンヌ手芸部）は、福祉施設で、障がいのある人が作った素材や、ものづくりの過程で生まれる廃材を購入し、小物やアクセサリーなどにアレンジし再生(=Re-born)して商品化する活動をしています。

手芸好きが集まって

メンバーは、福祉関係者や手芸好きの有志。「自分たちがほしいもの」をテーマに、手芸活動を楽しみながら、売り上げやアレンジのアイデアを福祉施設に還元しています。アレンジされた商品は、デザイン性が高く、「可愛い！」という純粋な理由でファンを増やし、関心層を広げています。

リボンヌ手芸部は、東京ではじまりました。最初はほんの数人でしたが、今では参加者も増え福岡に支部ができるなど、活動自体も注目を集めています。宮城での活動は、2012年7月に「リボンヌ手芸部宮城」として始動。不定期で手芸部の活動を行いながら、地元イベントからワークショップ開催を依頼されるなど、着実に活動の幅を広げています。

社会と福祉の間に新しい関係性を生む

福祉施設では、大量に出る廃材の問題や、扱って

る素材のマンネリ化、または「いいものを作っているにも関わらず、売り上げに結びつかない」というモチベーションの低下など、「ものづくり」を行う現場ならではの課題があると、実際に福祉施設で働いていた経験を持つメンバーは言います。一方で、手芸などものづくりが好きな人たちにとっては、福祉現場の廃材は素材として非常に魅力的です。手芸好きが「可愛いものを作ろう」と集まれば、それら廃材を使用した新しい創作のアイデアも膨らんでいきます。

一見接点がないように思われる福祉と手芸でしたが、お互いのできることを整理していくと、相互に有益な結果が見えていきました。そして、社会と福祉の間に新しい関係性が生まれたのです。「好きなこと」から多くの人を巻き込み、楽しみながら活動している一方で、福祉の現場での課題を解決する社会貢献の一助となっている。それがリボンヌ手芸部の大きな魅力です。

「手芸」からハジマル、フクラム

2013年11月に市民活動シアター^{*}で開催した「ハジマル、フクラムプロジェクト（以下、ハジフク）」では、リボンヌ手芸部の部長五十嵐香織さんとメンバーの武田和恵さん、上村俊幸さんをお招きし、福祉の「ものづくり」の課題を楽しく解決していく活動につ

2013年6月～2014年2月 @市民活動シアター ハジマル、フクラムプロジェクト開催

毎回さまざまな分野で活動するゲストをお招きしてのトークイベント。「自分の好きなこと」「気になること」からはじまったいろいろな活動やはじめた人たちをご紹介。活動や人との出会いをきっかけに、ゲストや参加者が一緒になって、互いのアイデア、想いをモクモクとふくらませました。

2013年

6月27日(木)

「本」からハジマル、フクラムトークナイト

8月1日(木)

定禅寺ストリートジャズフェスティバルを3倍楽しむ方法

11月9日(土)

「手芸」からハジマル、フクラムトークタイム

2014年

2月1日(土)

支えて楽しむスポーツのカタチ



▲ 様々なイベントでワークショップを開催



▲ 福祉施設で作られた木のボタンでブローチ作り

いてうかがいました。ワークショップでは、実際に福祉施設から買い取った廃材を材料に、ブローチを作りました。中には、手芸が得意ではない方もいらっしゃいましたが、参加者同士で教え合ったり、おしゃべりをしながら手芸を楽しみました。調べたり、話を聞くだけではなく、実際に活動に参加してみると「自分にできること」が広がり、協力者や相談相手と出会うこともあります。

参加者からは「リボンヌ手芸部の活動の仕組み、アイデアに目からウロコ!」「普段、手に入らない素材ばかりで、リボンヌならではの商品ができるのが楽しい!」という感想があり、「手芸部に入部してみたい!」と活動の参加に前向きになった方もいました。また、参加者の一人は、今回のイベント参加をきっかけに、自身の手芸店でリボンヌ手芸部とのコラボイベントを開催。新しい素材を求める手芸愛好家との出会いの場を提供することができたと言います。

「何かしたい」「自分にもなにかできないか」という思いや自分の好きなこと、どうしても気になって居

ても立ってもいられないことなど、その思いから始めた行動が少しずつ共感を呼び、仲間にして社会に広まり、社会を動かすチカラになります。リボンヌ手芸部の皆さんは、「ハジフクがきっかけとなってさらに多くの人に“部活動”とその意義を伝えることができた」と、今後の活動に意欲を燃やします。



部員募集中!

「手芸が好き」「可愛いものが好き」で、社会にできることがあります。

リボンヌ手芸部の活動に興味関心のある方、素材を提供してくれる施設や、出来上がった商品を置いていただける場所なども募集しています。

団体情報

リボンヌ手芸部

FB: <https://www.facebook.com/rebornne>



▲ 「手芸」からハジマル、フクラムトークナイト

サポセン・ココをチエック 市民活動シアター

サポセンの地下には、市民活動シアターがあります。演奏会や演劇の公演はもちろん、交流会やシンポジウム、ちょっとしたイベントまで、アイデアひとつでどのようにでも空間を創ることができます。地上階の研修室とは違い、シアターでは照明や音楽、映像などを効果的に使用することで独特の空間へと変化し、想像や発想の種をもたらす普段とは違った時間を共有できます。



マチノワ

市民のチカラがつながり、 まちのチカラとなる



仙台市市民活動サポートセンターが仙台のまちにできてから15年が経ちました。

仙台は、サポセンが生まれる前から脱スパイクタイヤ運動や定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど、「もっと暮らしやすいまちに」「もっと素敵なまちに」という市民の創造性から生まれた動きがたくさんあるまちです。そして、サポセンは、そんな一人ひとりの市民の思いがつながり、新しい価値を生み出す行動がもっとたくさん育つようにと生まれた施設です。

ここ15年の間にもNPOや市民活動に関係するいろいろな言葉を聞くようになりました。CSR（企業の社会的責任）、ソーシャルデザイン、イノベーション、協働などなど。でもその本質は、地縁組織、企業、個人、NPOなど多様な「市民」の地域や社会に対する思いが行動として生み出されること。そしてそれら市民の力が企業や行政という境界を越えてつながり、「まちの力」になることではないでしょうか。

今回の「ばれっと」でご覧いただいたように、サポセンは学生、シニア世代、女性など多様な市民の方々の力を引き出せる場として役目を果たしてきました。一方で、市民の力をしっかりつないでいくため、これからは今までの取り組みを発展させ、市民活動の情報流通を生み出す骨プロ[※]や、地域機関と連携・協力して市民の力を可視化する事業など、新しい取り組みを行っていく必要があります。





東日本大震災から3年が経過し、復興公営住宅の市内各地への建設、地下鉄東西線の開通、少子高齢化の進捗など、地域のあり方にさらに大きな変化が生まれています。

これからこのまちに、私たちが思い描く「マチノワ（まちの輪）」は、市民、商店街、メディア、行政、議員、学生などまちを彩る多様な主体が思いとアイデアを寄せ合い、力を貸し借りできるしくみです。そしていろいろな場所で生まれた「マチノワ」が互いにつながり、「誰もが生きやすく暮らしやすい仙台」「魅力ある素敵な仙台」をつくっていく。仙台がそんなまちになればいいと考えています。

サポセンは、これからも市民の力を引き出せる市民力の拠点として、また市民の力をまちの力につなげ、「マチノワ」が生まれる場となるよう取り組んでいきます。そして地域や社会の課題を解決するための行動を支えるパートナーとして、市民の皆さまと共に歩んでいきたいと思ひます。

仙台市市民活動サポートセンター センター長 菊地 竜生



※骨プロ:「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(骨プロ)」は、市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、仙台市内の12の公共施設が協力して行うプロジェクト。

「なにかをはじめたい」と思うあなたへ はじめるポイント

● 自分の好きなことや気になることは何ですか？
キーワードをみつけてみよう！

◀ 同じようなキーワードで活動している人を知っていますか？
情報収集をしよう！

■ 仲間や協力者をみつけよう！
同じようなキーワードで活動している団体に参加したり、
交流会や勉強会に参加して活動のヒントをみつけよう！

サポセンは、「なにかをはじめたい」あなたを応援します！

つながる つなげる サポセン

▶ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。

このようなご相談おまかせください。

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動・シニア活動、セカンドライフ相談など

まずは、お電話ください。

開館時間 平日：午前9時～午後10時

日祝：午前9時～午後6時

休館日 毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）及び、
年末年始（12/29～1/3）

HP



blog



Twitter



“Follow Me!”



編集後記

サポセン開館15周年に合わせて、現在5階展示スペースにて、15年分のぱれっとを展示中です。なかなか迫力があります。展示しているぱれっとは、お持ち帰りも可能です。7月14日までなので、この機会にぜひどうぞ！

お詫びと訂正：

ぱれっと6月号「東西線まちづくり市民応援部」の紹介記事に誤りがありました。正しくは、「仙台市地下鉄東西線2015年開業予定！」です。お詫びして訂正します。

▶ ぱれっと読者アンケートにご協力お願いします！



サポセンホームページからアクセスいただくか、
携帯電話等で左記の2次元バーコードを読み取って
ご利用ください。

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL. 022-212-3010 FAX. 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

Twitter <https://twitter.com/sensapo>

発行日：2014年7月4日

編集：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：菊地竜生 太田貴 菅野祥子 葛西淳子 竹樋秀康 松村翔子

デザイン：渡邊武海